

## 働く場での自分を省みる力の高まりをねらった実践例 〈職業科「印刷班」の取り組み〉

### (1) コミュニケーションの実態

年賀状の印刷をはじめとする外注による製品を扱うことから、「正確に、丁寧に作業する」というねらいをもって取り組んでいる。昨年度、印刷班で職業教育を受けた生徒も含めながら、ねらいにしたがって自分の課題により迫れそうな生徒、男子5名、女子2名の、計7名で編成した。

閉鎖的傾向の3年J子、2年J男、1年E男の3名は、比較的指示が通り易いが、具体的に行動化させる中で確認を取る必要がある。2年のO男は理解する力、作業能力ともに高いが、自分の障害への認識が希薄な傾向がある。同じく2年のI男は素直に話し手の指示を理解する返事はするが、具体的な作業の中では聞き取りが不十分でミスを繰り返すことが多い。1年のH男は自分の気持ちや自分なりの見通しに沿わない指示には、かたくなに拒否の姿勢をみせ、1年のA子は指示や指導に対して意欲的に取り組もうとするが、作業を遂行する上での指示理解があいまいで理解されていないことが多い。以上のように、本グループ全体として、指示や指導の働きかけを確実に受けとめ理解し、作業に取り組むことが課題となっている。

### (2) ねらい

印刷工程を学習する中で、各工程における技術や作業態度を身につけるとともに作業への意欲を喚起することができ、「労働」そのものを学ぶ場として有効であると考えてきた。特に「コミュニケーションの力を育む」上で、次のような視点（ねらい）をもって「授業づくり」に取り組んできた。

- ① 作業の全工程を確認した上で、担当する工程に責任をもたせ、他の作業工程に携わる生徒と協力連携して作業しているという意識を育てる。
- ② 生徒同士の教え合いも大切にし、生徒間のやりとりの力の向上を図る。
- ③ 作業の事前に自らが目標を設定する時間を設け、作業の後で目標に即して自己評価をさせ、自分を省みる力を養う。

### (3) 単元設定の理由および指導方針と手だて

印刷を通しての学習は、作業工程（受注→文選→組版→製版→校正→印刷→解版→返し→包装→納品）の豊富さが特徴である。したがって、生徒の興味・関心や実態に基づいて作業内容を選択させ、長期間の繰り返しの中で、一定の水準まで作業技能を習得することができる。また、一つひとつの工程が他の作業工程に影響を与え、作業が滞ることもある。そのことから、一人ひとりに自分の作業への責任感を持たせることができ、全体の中での自分を意識する力を高めることも可能である。「納期を守る」「不良品を出さない生産」という「製品」であることを意識させた目標を設定することで、工程の中での自分の作業を省みることを、より意識させることができると考える。

指導にあたっては、自らを省みる手だてとして、学習の最初にその日の作業にあたっての個人目標（努力点）を自分で立て、確認させてから作業に取り組ませた。生徒が常に「個人目標」を目あてとして活動するよう配慮し、授業が終了する段階で、自分の立てた目標に対しての自己評価をさせるようにした。そして、自己評価の内容を吟味した。

また、作業中には工程間の生徒同士や指導者との作業上の確認や伝達・報告を確実に行わせるとともに、問題点や課題をその場で指摘するようにした。この間における「伝える」「受けとめて理解する」という活動は、コミュニケーションの力を育てることになると考え重視してきた。

#### (4) 指導計画と単元目標

期 間	単元名	単 元 目 標
4～7月	ミニ文集の作成	印刷の工程を覚え、自分なりの目あてをもって作業する。 挨拶やことばづかいに気をつける。
9～10月	名刺の印刷	速さ、正確さを意識して根気よく作業に取り組む。 報告、質問といった作業する上での基本的な習慣を身につける。
11～12月	年賀状印刷	印刷の方法に慣れ、製品を大切に扱う。 目標の立て方や反省の内容を検討し、自分の作業に対する責任感をもつ。
1～3月	身分証明書 の作成 文集作り	確実に速く作業することに心がける。 自分の課題を意識して作業に取り組み、必要があれば援助を求める。

#### (5) 指導の実際

##### ① 単元「ミニ文集の作成」での取り組み

「印刷の工程」を学習して、初めて実践的に取り組む単元である。したがって、次のようなねらいをもって指導にあたった。

- ・作業工程の流れを「ミニ文集づくり」の中で覚えさせる。
- ・自分の目標は自分で設定し、自己評価するという意識を育てる。

初めて印刷の作業に取り組む生徒については、文字に関わる力や手指の巧緻性が必要となる作業が多いことから、作業そのものへの抵抗が見られた。しかし、「ミニ文集」の内容が「私の夢」という自分自身に関係した題材を取り上げていることもあって、自分の作文が活字になるという期待のふくらみが、次第に作業への抵抗を取り除き、集中力を高めていった。

コミュニケーションの課題に即して生徒の指導を行ってきたが、特に自分の立てた目標のもとに自分を省みるという指導を重視し、取り組んだ。その結果、自閉的傾向の生徒3名は、実際に取り組んだ作業内容を報告するだけで自らの目標に対する反省の視点すら理解できていないという状態が顕著であった。指導者の指示や指導にも周囲の様子が気になり集中して取り組むことができないという面もあり、個別に指導を行う必要があった。言語による指示だけでは見通しが持たせにくく、視覚を通して具体的に手順を示す指導を繰り返し行った。自閉的



始業時に設定した個人目標

傾向の生徒への具体的な指導が、他生徒にも目的や見通しを持たせることにもつながったが、反省の内容は具体的な自分の作業内容をあげて、それに対して「できた」「よかった」「楽しかった」と簡単に総括する傾向が強かった。

## ② 校内職業実習「年賀状印刷」の取り組み

校内職業実習は高等部全員で取り組む学習であるが、特に「年賀状印刷」という作業内容においては、印刷班の生徒の日頃の取り組みを発展させる単元となる。職業コースの中で培った力をより責任のある立場で発揮させることで、製品に対する責任、さらに自分の姿を省みる力を育むことができると考え指導にあたった。

生徒	分担工程	反省会の場面での自分を省みる様子
3年 J子	組版	直接自分が注意された事項について、納得ができていけば言いにくそうにしながら発表する。作業内容の報告だけに終わることもある。
2年 I男	文選、返し	自分の作業の重要性の理解が希薄で報告が遅くなる傾向がある。注意を受けたりミスを出した場合には、反省会の場でその内容を自分から発表し、時には「すみませんでした。」とあらためて謝ることもある。
2年 J男	解版	直接注意を受けても、教師との関わりを楽しんでおり、同じ誤りを繰り返す。自分の非が認められないので、反省の場面で注意を受ける。
2年 O男	組版、製版	自分の作業内容や役割を自分なりに高く評価しているため、自分のミスを指摘されても、それを全体の場で自ら発表することができない。
1年 E男	文選、返し	作業とは関係のない自分の興味関心のある内容で教師に話しかけることの多い作業態度が反映して、自分の作業内容を報告するに停まる。
1年 H男	返し	自分の作業が十分に果たせたかどうかの認識が希薄で、発表は自分の作業内容を報告するに停まっており、それで満足している。
1年 A子	受注、納品	校外に出ることが多かったためか、周囲の様子に気をとられ、自分の態度や話し方への課題が理解されていなかった。

作業量が多い中での取り組みであったので、他の作業工程との関わりはかなり意識されていた。しかし、この校内職業実習でねらった「他生徒との関わりの中で自分を省みる力を伸長する」という段階には至らず、今後も指導を継続する必要性を感じた。

## (6) 考察と今後の課題

印刷を通しての学習は、仕事の流れを知り、自分の役割を自覚させるには格好の取り組みではあるが、作業内容の難しさから、長期にわたっての技能面での継続指導が必要である。しかし一方で、技術の習得を基盤においているだけに、逆に自分の技術・技能を検証しやすく、自分を省みることの手だてとすることができる。したがって、反省会の内容では、まだまだ自分の作業態度や技術を適確に振り返るといった段階にいたってはいないが、指導者が発表内容をさらに細かく吟味し、実践を繰り返す中で、自分を少しでも客観的に見つめる力を養うことができると考える。 (市谷)